

発見から3年、地元では古墳周辺の整備や活用が進行中・・・

「角田浜妙光寺山古墳まつり」を開催します！

新潟市西蒲区の角田浜妙光寺山古墳が国土地理院の傾斜量図の観察をきっかけに「発見」されてから、3年が経とうとしています。この間、文新協では古墳周りの草刈りや登山道の整備などに定期的に取り組み、古墳直下の妙光寺さんや地元角田地区の市民の方々とともに古墳についての学習活動をすすめ、活用の道を探ってきました。

このたび、角田地区の人たちを中心に実行委員会が結成され「古墳まつり」を開催する運びになりました。文新協も全面的に協力し、新潟日報「未来のチカラ」プロジェクトの取り組みとして企画を進めています。大勢の地域の子供たちが参加する予定ですが、橋本博文本会会長監修による「葬送儀礼」の復元や大人も楽しめるたくさんの企画を準備しています。ふるってご参加ください。

と き：2022年9月24日（土）13:30～16:00

と ころ：妙光寺境内（新潟市西蒲区角田浜1056）

※詳細は同封のチラシをご覧ください。雨天の場合は翌日に順延します。

角田浜妙光寺山古墳は妙光寺境内から徒歩約20分です。いつでも見学が可能ですが、まつり当日は文新協メンバーが現地でご説明する予定です。急峻な山道を登りますので、足下には十分にご注意ください。なお、今年度に入ってから角田浜妙光寺山古墳をめぐる動きを以下にご紹介します。

「角田の歴史」講演会で川上副会長が講演しました。

2022年3月27日（日）、角田浜妙光寺山古墳近くの角田地区コミュニティセンターで開催された「角田の歴史」講演会で、本会の川上真紀子副会長が講演を行いました。この講演会は角田地区コミュニティ協議会地域伝統部が主催したもので、地域住民を対象にしたものです。

まずは地元、角田山妙光寺院首の小川英爾さんが「最近判明した妙光寺関連の角田の歴史」と題して講演。弥彦・角田山塊の修験道と周辺に残る聖地にまつわる由来、角田浜と妙光寺の歴史について語り、このたび発見された古墳の命名の由来も紹介されました。その後、川上副会長は、古墳時代と文化の特徴、測量調査から判明した角田浜妙光寺山古墳の墳形の特徴、海からの眺めを意識した古墳の被葬者像などについて語りました。地元市民の関心も高く、たくさんの質問が出されるほどでした。



春休みこども古墳見学会に約30名参加。

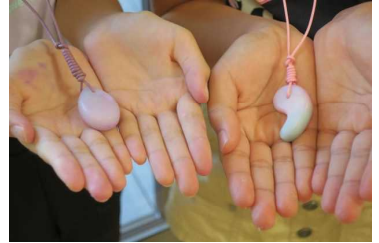
4月2日（土）には角田浜妙光寺山古墳で、地元の小中学生を対象とした「春休みこども古墳見学会」（角田地区コミュニティ協議会 地域伝統部・角田ガイドの会あんで



こ～主催)が開催されました。参加したのは小学1年生から中学1年生までの子どもたちとその保護者たち。約30人で古墳まで登り、本会会長の橋本博文新潟大学名誉教授が説明を行いました。実際に古墳の上に立っての説明に、子どもたちも真剣に耳を傾けていました。早速、「土器を拾いに行きたい」「自分で遺跡を探したい」というお子さんもいて、貴重な経験になったようです。古墳見学のあとは、近くの雪割草やカタクリなども観賞して下山、「古墳も山野草も地域の大切な宝」と実感できるひとときでした。

子ども体験企画「勾玉づくり」が行われました。

8月21日(日)、角田地区コミュニティセンターで「夏休み子ども体験企画 勾玉づくり」が開催されました。これは9月に予定されている「古墳まつり」のプレ・イベントとして角田地区コミュニティ協議会が主催したものです。約10名の親子が参加し、新潟市文化財センターの職員の方の指導のもと、勾玉づくりに励みました。各自がそれぞれのかたちに磨き上げ、思い思いの色に着色し紐をつければ完成です。早速首からぶら下げて、みなさんうれしそうに帰路につきました。



第21回総・大会「前方後円墳新発見！」を開催！

コロナ禍の中、県内新発見の古墳の実態に迫りました！

木村英祐

2020年11月23日(月・祝)、新潟市万代市民会館・6階多目的ホールを会場に、文新協・第21回大会「前方後円墳新発見！—角田浜で、頸城平野で、あなたの町で…」を開催しました。この年の春に新聞報道された新潟市西蒲区の角田浜妙光寺山古墳(当時は仮称)の発見を機に、県内で新発見の古墳についての研究成果を紹介しました。

冒頭あいさつに立った本会会長の橋本博文さんは、角田の古墳発見の経緯を簡単に紹介したのち、今回の大会開催の趣旨を語りました。そのひとつが「このような古墳が一体どの様にして発見されたのか？」ということです。これについて、きっかけを作った藤原好二さん(倉敷埋蔵文化財センター主任)が、国土地理院がホームページ上で公開している傾斜量図を用いた古墳探査の方法について「新潟市西蒲区 角田妙光寺



岡山からビデオで講演した藤原さん

山古墳の発見」と題したビデオ講演で紹介しました。傾斜量図とは地形の起伏を示した地図で、地表面の傾きの量の大きさを白黒の濃淡で表現しています。これはホームページ上で自由に見ることができるため、古墳の発見に役立てることができるということです。藤原さんは自身が新たに確認したいいくつかの古墳の画像を示しながら、その方法を解説しました。コロナ感染の拡大に伴い、残念ながらビデオ録画での講演となりましたが、全国で10例以上もの古墳の「発見」に関わった経験を存分に語っていただきました。

続いて、川上真紀子さん（本会副会長）「角田浜の前方後円墳の測量調査成果報告」、高橋勉さん（頸北歴史研究会）「上越地域の前方後円墳」で、2ヶ所の新発見の古墳についての最新情報を報告していただきました。川上さんは2020年3月から開始した測量調査の成果を踏まえ、海側（西側）の後円部が反対の東側に比べて明らかに高く、海から見たときに大きく見えるように設計されていることを述べ、海上からのランドマークとして機能していた可能性を強調しました。高橋さんは「頸北地域はすごい！」を合い言葉に地域の歴史を探究している頸北歴史研究会の活動を紹介し、古代・中世の製鉄遺跡や須恵器窯跡を発見したこと、そして今回の前方後円墳を含む町田古墳群の発見につながった経緯を報告されました。前日まで行っていた測量成果も示しながら、今まさに4～6基の前方後円墳が発見されつつある生々しい様子が語られました。



海から見た古墳の写真を示す川上さん

最後に登壇した橋本博文さん（本会会長・新潟大学名誉教授）は「最新成果から探る新潟県域の前期古墳」と題して講演しました。橋本さんはまず、角田浜妙光寺山古墳の発見によって日本海沿岸域の前方後円墳の分布が北に前進したこと、町田古墳群は頸城平野における「頸南から頸北へ」という古墳分布の変遷を描ける可能性があることを指摘しました。そして、水上交通の拠点となる「海の古墳」「潟湖型古墳」と呼ばれる古墳の立地に注目する最近の研究に触れ、角田の古墳が県内第3位の規模を持ち当該期の古墳の中では最大の古墳と言えることから、被葬者が「越後の王」として広い地域を治める存在として君臨していた可能性を述べました。



地元有志が足で発見した高橋さんの報告

シンポジウムでは各報告者がそれぞれの古墳の実態解明の課題やその活用への期待を述べました。橋本会長は、角田の古墳が実は2017年に山城研究者の岡田建紀さんが「発見」していたことを紹介しました。今後、古墳研究者がなかなか足を踏み入れない標高の高い山の中での古墳発見の可能性を示し、山城研究者はもちろん登山愛好者など市民とも連携が必要なことも強調しました。



コロナ禍で様々な制限のある中での開催となりましたが、会場には約180名の市民が集い、真剣に耳を傾けていました。新潟市に共催していただき、大きな会場を確保できたおかげで入場制限もなく、たくさんの方々に県内の古墳研究をめぐる最新の情報をお伝えすることができました。たくさんのご協力に感謝します。また、角田浜妙光寺山古墳周辺の調査に対して募金を呼びかけたところ、約5万円のカンパをいただきました。ここにお礼申し上げます。

----- 【参加者の感想】 -----

○発見されたばかりの角田浜妙光寺山古墳や頸北の町田古墳群の詳しい話が聞くことが出来て、大変面白かったです。また、橋本先生の総まとめ的なお話で、これまで個別の遺跡として認知して

- いたものを全体的な流れの中で見ていくと、それぞれの遺跡の新しい局面が見えて来て、大変勉強になりました。春になったら、雪割草と共に角田浜妙光寺山古墳を訪ねてみたいと思いました。
- 角田浜妙光寺古墳のお話。その土地の状況に合わせて作るということが出来る技術と熟練に感心しました。頸城平野の前方後円墳。大変すばらしい発見だと思いました。
- 新潟県で新たに発見された古墳の情報などがわかり、僕は古墳についてより興味がわきました。前方後円墳の詳しいことなどもわかりました。新潟県など古墳のことなどを勉強できるので、僕は講演会を開いてくださってありがたいことだと思っています。これからも参加します。
- この春によく行く角田山で古墳が見つかったとの新聞を読み、早速発見のきっかけとなった国土地理院の地図をネットでみてみたが、さっぱり分からずはどうしたら分かるのだろうかともヤモヤしているところへ今回の講演会の案内の記事を読み参加させていただきました。発見者の方の説明、また現地調査を行った方の説明を聞き、納得するとともに改めて興味を深めました。
- 私は新潟市内東区在住ですので、橋本先生が発見された牡丹山諏訪神社古墳について日頃から関心がありました。日報の記事で角田浜妙光寺山古墳を知り、一段と興味を持ちました。私は妙高市生まれで、このたび高橋さん達のご報告を拝聴し、頸南地方出身として非常に感動しました。高橋さんの益々のご活躍にエールを送ります。コロナ禍の中で、このような機会を得られましたことに、文新協事務局の皆さんに感謝申し上げます。
- 古墳についての問題点や現在における考え方を示して頂き、スライドを多用して、具体的で良かった。リモートでのお話もおもしろく参考になった。最後のまとめもたいへん良かった。
- 次々と新しい発見が見込めてワクワクしてきます。川上さんの「古墳を大きくみせる方法」おもしろく拝聴しました。高橋さんの発見にいたる経緯は、とても興味深く聞きました。
- 藤原氏の作成した図がよく見えなかったのは残念だが、講演内容は分かり易く面白かった。高橋氏の講演内容も新発見ということで面白かった。橋本先生のまとめも視野が広く、勉強になった。

【追記】なお、大会に先立ち行われた総会では、「2019年度活動報告」「2020年度事業計画」などの議事が承認されました。ここにご報告させていただきます。その後、コロナ禍での行事見送りなどもあり、2021年度は総会を開催することができませんでした。ここにお詫びします。(事務局)

編集後記

たくさんの市民の方々に最新の古墳情報をお届けした2020年の第21回大会から2年が経とうとしています。この間、コロナ禍の中で十分な活動ができず、この会報をお届けすることもできずにいました。ひとえに事務局の怠慢によるもので、お詫び申し上げます。一方で、角田浜妙光寺山古墳は地元市民の理解のもと、様々な取り組みが行われています。地元が中心となって取り組む「古墳まつり」にぜひご参加いただき、文化財を守り活用する活動を応援していただきたいと考えています。

この『会報』は文全協会員でなくても、最近の文新協行事に参加された方にお送りしています(ご参加なき場合は郵送を取りやめていきます)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。ぜひ、文全協にご入会を！

文化財保存新潟県協議会(文新協)事務局(入会についてのお問い合わせも)

電話：090-2735-5536(木村)

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ：https://bunsinkyou.web.fc2.com/

ホームページを2021年3月26日にリニューアルしました。

文化財保存全国協議会(文全協)の
ホームページもご覧ください。
<http://bunzenkyou.jp/>